

景 / 観 / 文 / 化

NPO法人 景観デザイン支援機構 けいかん・きこう <http://www.tda-j.or.jp>

2016-12-01

目次

- 表紙
「トリノ（イタリア）は2006年オリンピック・レガシーとして何を遺し得たか」／（写真・文）中野 恒明
- 見開
TDA NEWS
「TDAサロン報告」／西田 幹
「景観デザイン交流会報告」／吉田 慎悟
- 見開
ランドスケープ事情
「中世の広場空間が現代に生きる北イタリアの城郭都市パドヴァ」／鈴木 稔
- 裏表紙
シリーズ：地域から
「栃木市」その2／大波 龍郷
- 裏表紙
景観ビジネス最前線／東洋工業(株)
- 裏表紙
ホワイトボード



トリノ（イタリア）は2006年オリンピック・レガシーとして何を遺し得たか

イタリア第二の工業都市と言われたトリノの街、今では映像文化・コンベンション都市に大きく変身した。その転換の起爆剤となったのが「トリノ都市調整計画」に基づく都市再生プロセスであり、それは2006年の第20回冬季オリンピック開催に照準を合わせ進められた。

大きな柱が市内の工業遺産の大規模な土地利用転換計画、その中軸が「スピナ計画」という鉄道再編の連続地下化プロジェクト、上部は「スピーナ・チェントラーレ（Spina Centrale）」と言う名の大通りに変身し、遊歩道や公園、そして都心に流入する自動車交通の受け皿の道路など、様々な機能を担わされている。開催前の完成は一部区間に留まるが、その後も継続され、通りに沿った工場跡地は大規模な公園や博物館、新業務地、集合住宅地へと変身し、その様は種々のメディアを通して発信されている。

筆者はオリンピック終了後の同年秋にある財団の視察団団長として同市を訪れ、当時の市都市計画局整備担当局長さんに案内され市内を巡った。そこで注目したのが「スピナ計画」と並行し、市街のZTL（自動車進入規制区域）拡張と、自動車で占拠されていた様々な歴史的広場を地下駐車場整備と連動し、歩行者広場に改造するプロジェクトが進行中であったことだ。こちらも多くが工事途上だったが、完成した広場はまさに市民のための解放区、本場のオープンカフェが花盛りで、昼夜を問わず市民の集う風景が演出され、随所で市民イベントが開催されていた。これこそ市民のためのオリンピック・レガシーの最たるもの、それは広範な都市計画から市民生活まで実に旨く連動しているように思える。果たして2020年の東京大会は市民に何を遺しうるのだろうか。

芝浦工業大学教授／TDA正会員 中野 恒明

TDA イベント開催報告

T D A サ ロ ン 報 告
 (株)デジタルキアロ/TDA理事 西田 幹
景 観 デ ザ イ ン 交 流 会 報 告
 色彩計画家/TDA理事 吉田 慎悟

TDAサロンは昨年より復活し、景観に関わるタイムリーな話題を取り上げ、計画者・行政と企業の方々が肩肘張らずに議論する、問題提起型のセミナーです。年に2～3回開催し、特に景観材料系企業の若手の方々も多く参加されています。

また、今回の日韓景観デザイン交流会は、昨年横浜で開催したお返しとして韓国に出向き、「史景」をテーマに、ソウル近郊の歴史都市スウォン市と、水辺を活かした大規模都市開発がすすむシフン市の2会場で盛大に行われました。

1 TDAサロン報告

堀教授による「景観デザインとは何か？」

2016年7月22日、TDAサロン「景観デザインとは何か？」が開催された。話題提供者として国、公団、地方公共団体の各委員会座長・委員を歴任され地方活性化、商店街や観光地の振興、まちづくりなどの計画設計を行っている、東京大学アジア生物資源環境研究センター・センター長教授：堀繁氏をお招きした。



堀教授は、この日も3回目の講演にもかかわらず、とても分かりやすくテーマをお話いただきました。また、会場とのコラボレーションを交えながら、本質に引き込む独特のスタイルで会場との一体感が生まれたサロンでした。

まずは、「景観デザイン」とは、景観とデザインの間に入る言葉を会場に問いかけることから始まりました。

堀教授が考える言葉は、「景観を良くするデザイン」であり、人の意思が入らなければなりません。次に景観とは、建物か希望のどちらに近いかと思われませんかとの質問。建物→町並み→物。希望→愛→物ではない。のどちらですか？

その後、景観とは、①見ること ②見る

ことによって得られる視覚像 ③視覚像を使って認識し評価し行動の判断をすることと考えており、全てが人に起こる現象なので物ではないと考えている。しかも、人は景観を見たときに一瞬に同時に認識する。その為には、見る視点が重要になってくる。景観とは、人が視点から見ることによって得られる視覚像である。したがって、見たいものが見やすい状態で見えること/見たくないものが見えない/見にくい状態にあることが重要である。

見たいものとは、興味を持つもの、判断の手がかり、ホスピタリティを感じるものであり見やすい物とは、他のものに邪魔されていない、見込み角が10度から20度の範囲にあるもの、見たいものが大きく見えることと考えている。

以上の観点を踏まえて景観とは「見ること」。視点の場に立って「見やすくするデザイン」が景観デザインである。

景観デザインで一番重要と考えているのは、ホスピタリティ表現であり、常に「私のことを大事にしている」と感じられる空間であること。この他、堀教授の設計例など興味のある方は、「堀繁教授講演会」を検索してみてください。



ランドスケープ事情

中世の広場空間が現代に生きる 北イタリアの城郭都市パドヴァ



14世紀の法廷庁舎前エルベ広場は野菜・果物市場(建物1Fに肉・魚・チーズ・パールの常設店舗)



シニョーリ広場の朝市(生活を支える各種商品)

北イタリア・パドヴァは紀元前3世紀より、当時ローマに次ぐ都市で12世紀コムエネ(都市国家)時代の骨格で、14～15世紀に完成した歴史的建造物(教会・市庁舎・王宮・総督官邸)と広場がそのまま利用されている。街への出入りする城門も、誇らしげに現存し活用されている。城壁沿いに流れる運河の水辺空間は緑豊かで老若男女の散策路や愛犬との憩い、大きな児童公園や船着場でのコンサート利用と幅広く市民生活を豊かにする。

約3km四方の旧市街地規模から想像以上に存在する教会・礼拝堂・鐘楼が、街のあちらこちらに見うけられる。中世の王宮・総督官邸は大学・市・県役所の公共施設として利用され、大きな壁面はプロジェクション・マッピングでX'mas等の各種イベントで彩りを添える。街路に面する住宅は1階部分を歩行空間に提供した柱廊(ポルティコ)が、街中を結び特徴的な都市景観を表す。当時より行政・商業の中心であるサローネ庁舎の両側エルベ広場とフルッタ広場には日々の生活に欠かせない野菜・果物の朝市、隣接するシニョーリ広場にはテント屋根設営が半自動式モビール店舗の花屋・服飾・カーテン・キッチン用具・アンティーク・古本等何でも揃う。更に朝市後の広場は昼過ぎ・夕方からオープンカフェ・レストランに場を交代して、夜遅くまで人々が集うパブリックスペースとなる。中世からの都市生活が現代も継承されて、最近各地で路上利用の社会実験を始めた我が国とは歴史的に格が違うと言わざるを得ない。

2

景観デザイン交流会報告 第2回日韓都市デザイン交流会 in KOREA

日本と韓国の第2回目となる日韓都市デザイン交流会は、今年は韓国で開催された。この交流会に日本からは8名が参加し、シフン市とスウォン市を視察した後、会議と交流会が行われた。



10月7日、金浦空港で韓国中央大学の李教授と待ち合わせ、そのままバスでインチョン市のソンド国際都市を視察した。ソンド地区は水辺を活かして何棟もの超高層ビルが建ち並び、ダイナミックな景観をつくっていた。ここの超高層住宅は人気があり、価格が高騰したソウルから移り住む人も多いという。ソンド地区視察後、会議が行われるシフン市に移動した。まずは潮の干満を活かし、昔から塩田で塩づくりを行っていた干潟再生公園を視察した。今でもこの塩田で塩がつくられており、当時使われていた木造の小屋も資料館として再利用されていた。都市デザイン交流会の会場は、現在リニューアル中の下水施設の工場で行われた。この施設特有の匂いが残っていたが、配管をモニュメントとしてデザイン

した内装は、工場らしくなかなか面白い雰囲気を出していた。



今回の都市デザイン会議のテーマは“史景”であり、これに応じて日本側からは私が「地域の歴史と文化を活かしたまちづくり」として雁木を活かしたまちづくりを進める上越市の事例を、そしてクリエイティブスタジオ代表の高橋徹が日本橋室町街区の再開発の事例を紹介した。李教授の発案で決められた今回の会場は椅子もなく簡素な作りであったが、今回のテーマを語り合うのによい雰囲気の間であったと思う。

2日目は朝、世界遺産のまちスウォン市に移動した。スウォン市は早くから横浜の都市デザインに注目し、その手法を勉強してまち並みの再生を続けてきた。城壁の中の建築物は、周辺の山が見えるように高さがコントロールされており、住宅の屋根も昔ながらの色彩や素材を使うことが決められている。一時疲弊した商店街も商店主との合意で道路が整備され、建物の一階部分の外装には昔ながらのダークグレイのタイルが使われ、その上はレンガ色のタイルで統一されていた。さらには昔の路地を示すために、その部分だけ舗装材を変え、まちの記憶を継承していた。



会議の第一部は、元副市長からスウォン市の景観形成の紹介があり、続いてソウル市の建築家から都市デザイン全般の話と、最近の事例で高低差のある村の景観を活かすために、現在ある小道をすべて活かして建築をリニューアルするプロジェクトなども紹介された。

第二部は日本側からは、横浜市立大学教授の国吉直行が「横浜市の歴史と文化を生かしたまちづくり…近年の取り組みと課題」と題して横浜の歴史的な建築物の保存活用を中心とした報告を、そして、工学院大学名誉教授の倉田直道が「川越市における歴史と文化を活かしたまちづくり」と題して、川越市の取り組みを詳しく解説した。

そして第三部で7人のパネラーが壇上に入り、歴史的な資産をどのように残し活用すべきかを話し合った。2日間に渡る日韓都市デザイン交流会の内容は充実したものであった。

会議を終えてソウルに戻り、いくつかの場を視察したが、チョンゲチョンは緑で覆われ、デザインセンターも多くの市民が楽しむ姿が見られ、成熟した都市に変わりつつある。来年は韓国の都市デザイン関係者が来日し、また熱い議論を行う予定である。

あおば景観デザインネットワーク / TDA 理事 鈴木 稔



朝市が終わり午後にはオープンカフェに変身するシニョーリ広場



柱廊が連続する住宅街路 城壁沿いの運河の水辺緑地

また旧市街地は人と街の暮らしを守る一般車両進入禁止（ZTL）が設定されている。公共交通のトラム・路線バスや居住者駐車許可証をもつ車輛以外は進入禁止になる。狭い路幅が多く、素朴で歴史を感じる玉石舗装や石畳路を手携えて歩く高齢な人々やベビーカーの親子、学校に通う子供達、手動・電動の車椅子利用者も目立ち、全ての人々が狭い町でも伸び伸びと歩行者優先の安全安心な暮らしを確保されている。比較的自由に通行できる自転車・スクーターを筆頭とする二輪車と原付4輪（ミニ自動車）は、必然でイタリアらしい。信号による交差点は少なく、一般的には反時計回りのラウンドアバウト交差点で歩行者は絶対優先で、運転者も十分配慮している。

集積した石造りの街にオアシスとなる公園や街路樹の植栽は、4~5階建て住宅の樹高と大きな樹形で、強い陽射から人々を快適に守る。イトスギ・トウヒ・タイサンボクの常緑樹の他に、ボダイジュ・スズカケノキ・カエデ・イタリアポプラの落葉樹の落ち葉や木の実が路面に散乱し、路上駐車車体にも当然覆うが全く気にしない。統一された外観・色彩や高さ規制は古都保存優先の認識に支えられ、持続している。さらにランドマークとなる場所が、心和む水辺や緑地、統一感のある建物、路上に賑わうカフェ、暮らしを賄う活気ある市場、時代を超える石畳の路などで繋がっている。これに寛容と自由を謳歌する歴史に育まれた街の生活様式が、現代の暮らしにも輝きを添え、人々の暮らしが続く古都パドヴァの街である。

「栃木市」その2

今ある価値をこれからの暮らしに



パーラートチギ外観



カフェの内覧会の様子

「蔵の街」と称される栃木のまちは、江戸との舟運で栄え、江戸末から明治末にかけて見世蔵を通りに構える商家が多くあった。特に、黒漆喰で仕上げた重厚な見世蔵を構えることは当時の商人のステイタスであり、今も残る見世蔵を見比べながら、時代が進むにつれ造形・技術が発展していく様を楽しむことができる。

見世蔵をはじめとする商家も、高齢化に伴い空き家となったり、店は閉めても奥に住んでいるという例が増えている。店には水周りがなく、玄関を兼ねているため賃貸には出しづらいという事情もあることから、イベント等で一時的に店を貸りて掃除を行い、所有者に寄り添うように活用を図る市民活動も盛んである。私が大学卒業後に栃木市に関わることができたのもこうした活動があったからであり、通り沿いの黒い見世蔵と、川沿いの白い土蔵が建ち並ぶ景観が、これからもまちの誇りとして存在し続けて欲しいと願っている。

今年、登録文化財である関根家住宅が市に寄贈された。関根家は、江戸末期より煙草の卸売商として栄えた。県南の煙草元売業界の責任者をつとめた旧家であり、栃木市の経済・生活の両面に貢献した。

「パーラートチギ」の創出

この関根家住宅を、地方創生加速化交付金を活用し、栃木市で仕事や生活をしていきたい若者を誘致するための複合施設「パーラートチギ」として整備する事業がスタートした。本事業の運営を担うにあたり、私たちは新たに合同会社を設立した。本施設の顔である大正11年（1922）に建設された店舗をカフェとシェアオフィスに、住居をショップとワークショップなどを行えるスペースに活用し、あわせて仕事・活動・生活に関する相談と情報提供も行う。カフェを12月に先行オープンし、2月のグランドオープンをめざしている。

栃木市には、山間地・平地・湿地が水の流れとともにつながった豊かな土壌があり、そこから生まれる農産物や自然素材、加工食品や日用品をつくる技術が、さまざまな産業を地域に根づかせた。これら産業とともに中心部では商業が栄え、今もさまざまな時代の建築が残る町並みは、栃木市がいかに豊かな風土に恵まれ、発展してきたかを教えてくれる。人々の営みが育んできた空間・風景・素材・技術などの価値あるものを取り入れた暮らし方を示し、地域経済をつくり、栃木市で喜びをもって暮らすという価値観をこれからの世代に伝えていきたい。

景観ビジネス最前線

「景観を美しくしたい」
そんな願いを実現する舗装材。ベーシックペイブ。

自然石の色を生かしたベーシックペイブは、日本の景観に秩序ある図と地の関係を取り戻すために普及したい舗装材である。

色彩計画家 吉田慎悟

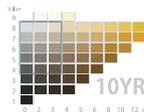
地色舗装材
ベーシックペイブ
Basic Pave

自然

地域 文化

TOYO 東洋工業株式会社

東京営業所 〒116-0014 東京都荒川区東日暮里5-41-2 NNビル9F
TEL (03) 5615-7230 FAX (03) 5615-7233



□10YR・中明度・低彩度の舗装材
日本の建築物や街並みに見られる
10YRの色味を意識した、
自然・地域・文化を引き立てる舗装材です。

ホワイトボード

このコーナーの情報募集

最近TDAの活動が広がり、そしてその一つ一つが新たな人の結びつきを生みつつあるように感じる。本来このコーナーは様々な方、特に読者の意見等を掲載したり、会員の活動の紹介、イベン

トの告知、など景観にまつわる様々な事を書き連ねる目的で考えたのだが、いつの間にか編集後記的になっている。次号からはここでの232文字も活性化する工夫をしたい。否このコーナーを拡大できる事を夢見ている。是非、みなさまの情報を！！

TDA
TDA JAPAN
頒価 ¥100

NPO法人 景観デザイン支援機構 事務局

私達は下記の企業・団体のご協力をいただいています。
(株)昌平不動産総合研究所 / (株)住軽日軽エンジニアリング / 都市環境デザイン会議 / (株)コトブキ / (株)都市環境研究所 / 東京ガス用地開発(株)

〒111-0043 東京都台東区駒形 1-5-6 金井ビル 3F
Tel : 080-6722-4114 Fax : 03-3847-3375 E-mail : main@tda-j.or.jp
http://www.tda-j.or.jp https://www.facebook.com/tda.public

【編集：(株)アーバンプランニングネットワーク】 2016121000